

社協 那加一地区だより

平成28年度 3月15日
No.42
編集・発行
各務原市社会福祉協議会
那加一地区

思いやりの心を大切に

那加一地区社協会長 牧田 博明

那加一地区の皆様に於かれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

年度当初の社協地区総会で決定された活動計画も順調に推移し、年度末を迎えることができました。これもひとえに関係者の皆様方の温かいご支援と、ご協力の賜ものと心より感謝申し上げます。

また、昨年8月には各自治会を通じてお願いしました社協会員募集に対して、3、332世帯のうち、2、863世帯から多大なるご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、各務原市においては、平成27年度より5か年計画で「第3期各務原市地域福祉計画」がスタートしました。住民、地域組織、学校、福祉施設、民生委員・児童委員、近隣ケアグループ等の構成員の方々が、高齢者福祉、障がい者福祉、子ども福祉、健康づくり、防災などにおいて、それぞれが「笑顔があふれる元氣なまち」を目指して、地域活動しておられます。

地域福祉と一言で申ししましても、地域には、個性、そして地域特性がありますが、那加一地区の皆様方には、地区社協の事業内容に対して全面的に協力していただき、誠にありがとうございます。私たち地区社協は、「思いやり」の気持ちを常に持ち、さまざまな事業を進めてまいりました。5月には障がい者福祉・子ども福祉事業の「車椅子等体験学習」を実施し、6月には「高齢者健康づくり教室」、7月には高齢者の方々の消費者被害防止に役立つ研修会も開催しました。

また、10月には「お年寄りを囲む会」を行い、中学校の協力もあり、那加一小卒の中学生に集まってもらい、生徒さんとそれぞれの地域のお年寄りとお話をする機会を設けました。なかなか地域の子どものお年寄りとお話をする機会がなく、皆さんにとっても喜ばれました。

最後に、今年度の地区活動を通じて、那加一地区の絆やつながりの大切さを改めて感じました。そして、これからも、それぞれが「思いやり」の心を忘れずに、社協のスピーカーである「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」の実現を目指していただけることを願っております。

気軽に集い 一緒に活動し 仲間づくりを

今年度もボランティアハウスが開催されました（関係者のみなさんありがとうございました。）

- ・西市場いきいきサロン（毎月第3水曜日）
- ・琴が丘ふれあいサロン（毎月第2・第4日曜日）
- ・桐野ふれあいサロン（毎月第2木曜日）
- ・ボランティアハウス浜友会（毎月第3火曜日）

発足から9年 ボランティアハウス浜友会紹介

（＼縄が完成しました）



青田刈りをする人、干して保管する人、南天の木を干して墨をぬる人等々、多くの人の手が加わって多くの人の温かい心が集まって＼縄が出来ました。



講師の「広瀬日出夫」さんありがとうございました



もしもの時は私が… パットを貼って…

4月	犬山城、犬山の街の散策	10月	岡崎城、コカコーラ工場見学
5月	健康講話、ごきぶり団子作り	11月	予防救急
6月	認知症予防	12月	＼縄作り、お餅つき（第1日曜）
7月	クオリティ※子ども会と一緒に	1月	新年会
8月	中高年の健康体操	2月	お手玉、将棋
9月	刺子作り	3月	まとめ、次年度の計画

80代の方が話されました。

あのね。以前はあちらこちらに行って、趣味を楽しんだんやよ。でも体が弱って来るとやっぱり近くがいいねえ。4年前から仲間に入れてもらってるよ。

浜友会の方々、すてきな仲間と活動してみえます。

11/27 第2回 近隣ケア研修会

西福祉センター 参加者 72名

自治会長、近隣ケアグループ員
民生委員児童委員、主任児童委員



「声かけて 困った時は お知らせを見守りながら つなぐ ご近所」

※近隣ケアグループのキャッチフレーズ

- 市社協の小林ゆかりさんから「近隣ケア活動」について話を聞きました。小地域において声かけや見守りを通して支援が必要な人をその地域で支える取り組みである。グループ員個人の負担にならない様に自分にできる事をしていこう。
- 「前年度那加一16地区の『近隣ケアグループ活動』調査の報告」

～福祉推進委員 杉山康彦さん～

〈グループの活動内容〉

- ①プレゼントを配り安否確認・交流
誕生日に、敬老の日に、クリスマスにバレンタインに
- ②敬老会を計画、実施
- ③お楽しみ会を計画、実施
- ④見守りの為に家庭を訪問（声かけ・熱中症予防）
- ⑤簡易なお手伝い

〈グループ員構成に関する事〉

- ①人数…平均すると7～8名
最小人数…4名
最大人数…16名
- ②任期…1年…3町内・2年…6町内
3年…2町内・なし…5町内
- ③選出方法…近隣ケアグループ員が自ら声を掛けてグループ員になってもらう所が11町内

どの町内も悩み、工夫をしながら活動をしているが、願いは一緒「**みんなが安心して暮らせる地域にする為にお役に立ちたい**」と。（しかし無理はしないで下さいね）

- 質疑・応答の中で実際に起きた事例を話された方がみえた。そして最後に「おかしい」と思ったらすぐに連絡をして下さい、と結ばれました。

自治会長へ、民生委員へ、そして包括支援センターへと



✧ 平成27年度 事業報告 ✧

平成27年度 那加一地区役員名簿

（敬称略）

年 月 日	活 動 内 容
27年 4月17日	第1回地区社協理事会
5月15日	第1回地区社協総会
5月29日	那加第一小車椅子・点字・手話 体験学習
6月 5日	高齢者健康づくり教室の開催（市出前講座）
7月26日	第2回地区社協理事会
8月	那加一社協会員の募集、年会費の徴収
9月18日	第一回近隣ケアグループ研修会（特殊詐欺被害防止対策）
10月 9日	第3回地区社協理事会
10月23日	お年寄りを囲む会
11月13日	第4回地区社協理事会
11月27日	第二回近隣ケアグループ研修会（グループ座談会）
12月 7日	友愛訪問準備
12月 8日	友愛訪問（寝たきり老人及び90歳以上の高齢者）
2月 5日	第5回地区社協理事会
3月 4日	第6回地区社協理事会
3月15日	那加一地区だより発行
3月18日	第2回地区社協総会

役職名	氏 名	役職名	氏 名
顧問	村瀬 春 峰	理事	吉 田 恭 則
会長	牧 田 博 明	理事	吉 田 建 治
副会長	橋 本 光 宗	理事	浅 野 健 治
副会長	津 田 利 夫	理事	浅 野 紀 生
福祉推進員	杉 山 康 彦	理事	浅 野 靖 博
福祉推進員	平 光 恵 子	監 事	広 瀬 範 雄
理事・会計	村 瀬 広 昭	監 事	尾 関 久 子

評 議 員	堀 満 夫	浅 野 信 義
	浅 野 菊 二	津 田 好 敏
	坂 井 利 秋	坂 井 みゆき
	浅 野 久 志	大 橋 和 子
	大 東 正 雄	中 村 勝 行
	今 尾 拓 史	恩 田 守
	木 寺 主 計	杉 山 好 美
	田 中 山 一	小 川 久
	尾 関 俊 輔	坂 井 義 弘
	中 村 金 美	西 秀 人
	永 田 浩 行	服 部 美奈子
	西 村 将	馬 場 忠 久
	中 村 寿	熊 崎 健 二
	今 本 周 二	吉 野 哲 夫
	今 尾 匠	篠 田 淳 子
	嘉久見 得 祐	

編集後記

今年度より名称を「支部社協」から「地区社協」に変更し、活動をしてきました。皆様の変わらぬご協力・ご参加により諸行事を無事に終える事ができました。ありがとうございました。

歌を聴いて
ダンスを見て
落語も聞いて
楽しかったなあ

10/23

お年寄りを囲む会

10:30~15:30
参加者 121名

那加一小体育館

那加一小の卒業生
全員が歌ってくれた

中学生と話が
できて良かった

体操
「レッツクラブ施設長さん」

《勝笑芸一座》

大正琴
「アンサンブルピエロ」



那加保育所 組体操



那加一小1年生、美しい歌声



那加中2年生 胸にせまる歌声



しおりのプレゼント



演技



お年寄りと交流

交流を終えて

那加中の事をたくさん知る事が出来た。校歌は二回生の生徒とその学級の先生と協力して作った事が分かりました。

昔の山後は、家がとても少なかった事、那加中の生徒の人数がとても多かった事を知りました。

今回の交流で、お年寄りとうどう接すれば良いかが理解できた。普段、友達と話している声の大きさでは伝わらないのもう少し大きな声で話さないと行けない事が分かった。

会の終了後、那加中学校より生徒130名全員の感想が寄せられました。その中から一部を紹介します。

近所のお年寄りの方々と話が出来るのはあまりなくて、楽しかった。
校歌も口ずさんで聴いて下さり嬉しかったです。

戦争の事や西市場で起きた自然災害について聞いた。伊勢湾台風の時、床上浸水したそうです。

お年寄りの方々は、明るく元気で美しく本当に70代、80代の方々なのかと驚きました。

来年も「お年寄りを囲む会」に来て下さい！

12月
友愛訪問

在宅で90才以上の76名の方に、そして寝たきりでご自宅で療養していらっしゃる17名の方を対象に実施しました。担当地区の民生委員児童委員の方々にささやかな贈り物を持って各家庭を訪問してもらいました。



相手の立場に立って思いやりの心をもって行動しよう

5/29

車いす体験、点字・点訳・手話についての話

那加第一小学校 4年生 127名

点字サークル「あけぼの会」、手話サークル「はにわ会」、聴覚障がいの方、視覚障がいの方を講師に招き学習しました。そして、自治会長・民生委員児童委員・主任児童委員の協力を得て実施しました。

ふくしのじゅぎょうから分かったこと
四年 大塚 渉平

ぼくは、目、耳、体とさまざまな所が動かなかったり、聞き取れなかったりと、不自由な人のことはふかく考えたことがそんなにありませんでした。でも一回考えたことがありました。その時は、不自由な人は、かわいそうだな。とは思えませんでした。しかし今日の学習で、どんなに体が不自由でも、みなさん方はのびのびと生活をおくっていることがよく分かりました。次、体が不自由でこまっている人を見かけたら少しでも助けられたらいいなと思います。



えっなんでもできる、みぞぐちさん
四年 高橋 美里

私は、目が不自由な方は自分の事は、あまりできないものだと思っていました。けれど、今回試してみたらそれはちがうとびっくり分かりました。見える、見えないのどちらでも関係なく、一生けんめい生活すればいいとみぞぐちさんに教わりました。これからは、そんな人がいたらささえたいし、家の手つだいも進んでし、人のやくに立ちたいです。



むずかしいな、車いす
四年 浅野 乃里香

わたしは、車いすのそつさは、かんたんなかなとずっと思っていました。でも、今日体験して分かりました。車いすのそつさは、とてもむずかしいという感じが、上るときや、下るとき、車いすが重たいし、そのうえ人のついているのが、重かったんです。わたしは車いすのついでに、物にぶつかりそうだったし、二回もやり直しました。車いすのついている人は、たいへんなんだなと思いました。これから、わたしは車いすのついている人を見たら道をあけてとおりやすくしてあげたいです。



体が不自由な人の生活体験
四年 瀧本 敬

ぼくは、今日やった体験で、体の不自由な人がこのような生活をしているなんて「たいへんなだろうな。」と思いました。目が見えない人は、歩くことや、りょう理に階だんの上り下りがたいへんだし、声が聞こえない人は、何を言っているのかわからないからそれぞれ工夫をして、ふつうの人みたいに生活をしているところに感じました。体が不自由な人のために、工夫をして、みんな協力して、生活しているところがすごいなあと思いました。



9/18

第1回近隣ケア研修

参加者 60名 西福祉センター

《第1部》「見守り」で防ごう高齢者の消費トラブル

～講師 県司法書士会 青木 文子 氏～

《第2部》点検商法・老人ホームの名義貸しに注意！



～寸劇グループ「つくしんぼ」～

《相談して下さい》



はっきり言う
「要りません」

※口頭でも売買契約成立！

「おかしい？」と思ったら相談
消費者ホットライン0570-064-370

5/29

健康づくり教室

参加者 137名

講師 介護予防運動指導員 土屋 航氏



運動をし、食事にも気を付け
免疫力を高めよう！！
※甘い物の摂り過ぎにご用心！！